

芹ヶ谷公園再整備基本計画(素案)

- 1 計画の目的
- 2 再整備のテーマ
- 3 エリア別コンセプトの課題と施設整備について
- 4 再整備基本計画図(素案)
- 5 植生管理の方向性
- 6 想定される事業例
- 7 中心市街地との関連図及び今後の進め方とスケジュールについて(案)

＜参考資料1＞ 現況公園施設の概要

- (1) 現況図
- (2) 現況公園施設の位置
- (3) 現況公園施設の概要
- (4) 国際版画美術館と公園内オブジェ

＜参考資料2＞ 当初計画及びその計画趣旨

芸術の杜で！



計画の目的

新たな賑わいの創出

芸術の杜にふさわしい空間演出

公園予定地を含めた一体的活用

中心市街地に隣接する緑豊かな芹ヶ谷公園は、地域に住む方々はもちろん、買い物や仕事で町田駅を訪れた方々も気軽に立ち寄れる公園です。

まちなかにありながらも、保全された谷戸地形が静かな空間を創出し、湧水に恵まれた園内では四季折々の景観を楽しむことができます。

園内には、世界でもめずらしい版画を専門とする国際版画美術館があり、点在する彫刻とともに芸術を感じられる空間となっています。さらに、「くらしの中の知恵と美」を探究する（仮称）国際工芸美術館の建設については、「町田市の博物館等の在り方検討委員会」において、国際版画美術館とともに美術ゾーンを形成して文化芸術振興に寄与すべきとの結論を受け、芹ヶ谷公園内に建設することが決まりました。

これにより芹ヶ谷公園は、町田市の文化芸術を発信する場として「芸術の杜」を目指すことにしました。

「芸術の杜」芹ヶ谷公園は、薬師池公園「四季彩の杜」、「スポーツの森」野津田公園とともに、町田市の中核的な公園としての機能が求められています。

「町田駅周辺のまちづくり」を町田市の重点施策として掲げている今、上記のような芹ヶ谷公園の魅力を一層向上させることで、新たな賑わいを創出します。

また、芹ヶ谷公園及び公園予定地を含めた土地を一体的に活用することで、「ヒト・モノ・文化が交流するまち」の公園として芹ヶ谷公園が生まれ変わることを目指します。

公園に求められるもの

- ・町田荘跡地（都市計画決定済未供用約 0.5ha）の活用
- ・高ヶ坂都営住宅跡地（約 2.5ha）の活用
- ・（仮称）国際工芸美術館の建設計画に合わせた整備
- ・トイレや管理棟など老朽化した施設の改善
- ・防災及び防犯機能の充実

町田駅周辺のまちづくり

- ・中心市街地の活性化
- ・回遊性向上

2020 年東京オリンピック・パラリンピック

- ・東京からの世界へ向けた芸術文化の発信
- ・都内公共施設の多言語表記、ピクトグラム等の推進

その他の要素

- ・都市計画道路町 3・4・11 号線、同 3・3・36 号線の計画
- ・多摩都市モノレールの町田方面延伸路線の構想

2 再整備のテーマ

芹ヶ谷公園の再整備テーマ

まちなかで 人と緑が 出会い ふれあう 芸術の杜

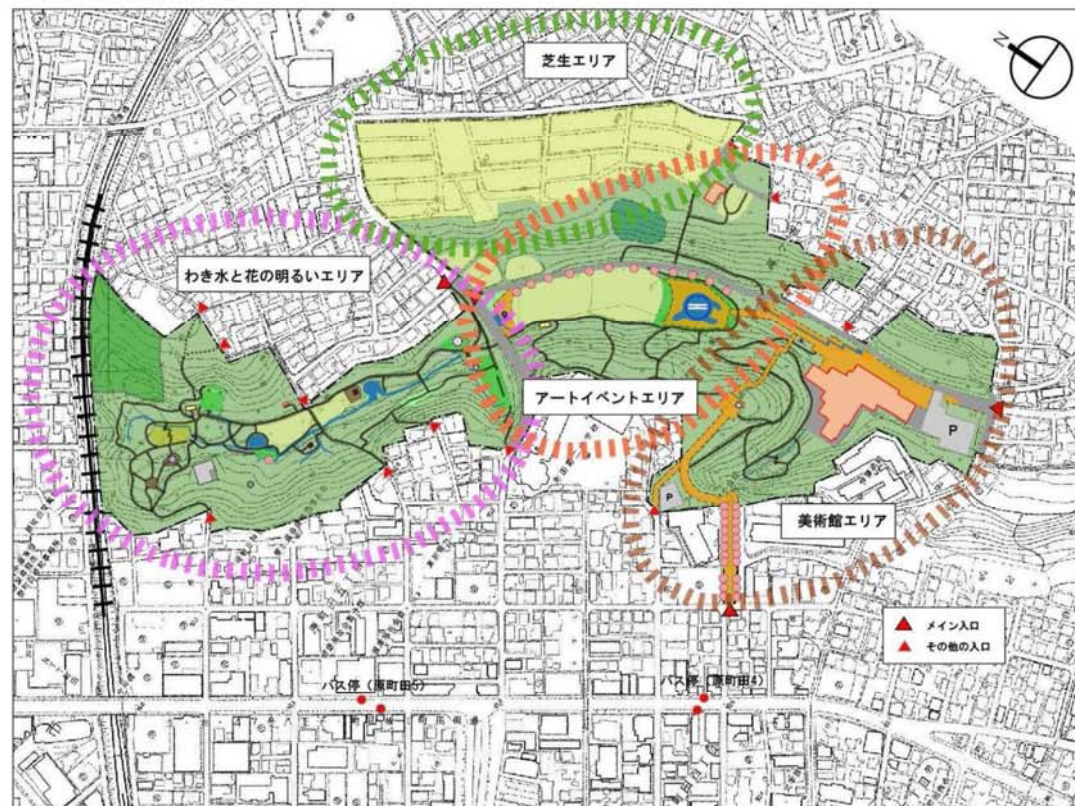


3 エリア別コンセプトの課題と施設整備について

■エリア別コンセプトの課題と施設整備

エリア別コンセプト	現況特性	コンセプトに対する課題	施設整備の考え方
開園の状況			
わき水と花の明るいエリア 1982年 (昭和57年)	●谷戸地形と湧水を生かし、緑豊かな空間で構成 ●池やあすまやなどで日本庭園を彷彿させ、静かで落ち着いた雰囲気 ●ホタルが生息している場	●暗い。 ●公園メインの入口から遠く人が行きにくい。 ●湧水が生かされていない。	●明るい空間を確保する。 ●水の音を楽しめる仕掛けをつくる。
アートイベントエリア 1991年 (平成3年)	●多目的広場広い空間で構成 ●さくら祭り、時代祭りなどイベントで利用	●芸術を感じさせる空間が少ない。 ●桜が少ない。	●芸術のイベント空間を設定する。 ●桜を増やす。
美術館エリア 1991年 (平成3年) 一部開園	●国際版画美術館は、市内外から多くの利用者が訪れる場 ●高台となっていて版画美術館方面を見渡せる景観の場 ●緑で覆われる一方日照条件が良い。 ●二つの美術館に近く、美術関連の連携の場 ●虹の水広場は、子どもたちの水遊びの場	●芸術の発信が上手く出来ていない。 ●町田荘跡地を活用していない。	●情報発信機能を再構築する。 ●芸術に触れ合う機会を創出する。 ●水遊びが出来るよう安全性を確保する。
芝生エリア (未整備)	●台地上にあり眺望に優れたエリア ●2ha以上のオープンスペースを持ち災害等、多様なニーズに対応可能	●都市計画道路とモノレール関連予定地を恒久的な建築物が建てられない。 ●都営高ヶ坂団地跡地を活用していない。	●都市計画道路やモノレール関連予定地を暫定利用する。 ●広い空間を活用する。 ●家族で遊べる空間を確保する。
公園へのアクセス	●駅から歩ける距離にある。	●小田急線で市街地と公園が分断されている。 ●わかりにくい	●分断を解消する。 ●入口をわかりやすくする。 ●楽しみながら歩けるようにする。

■エリア別コンセプト図



5 植生管理の方向性

植生管理区分図（検討中）



植生の概要

- 斜面地の緑は、シラカシ、アラカシなどの常緑樹を伐採して薪や炭などに利用されてきたクヌギ、コナラなどを中心とした雑木林であった。
- 雑木林として利用されなくなって常緑樹が大きく成長し、さらに開園後30年以上が経過し、公園体が濃い緑に覆われ、所々で暗い印象を与えている。

公園園地の植栽管理の考え方

- 遊具やベンチ、園路周辺の植栽が、成長により死角を生んで、防犯上問題があるという指摘があり、市民の安全を確保する観点から、これを改善していく。
- 成長し過ぎた灌木の高さの制限、中高木については倒木等を防ぐための間伐などを行っていく。また、周囲から公園の存在が分かるように適正な間伐などを実施する。
- 花木、紅葉の美しい樹種への転換により、季節感を感じられる植栽、花壇などの増設を検討していく。

斜面地の植生性管理の考え方

- 【斜面地の植生管理の考え方】
- 現況の植生の特性と利用のしやすさ（北向斜面は利用に不向き）なども踏まえ、植生タイプを設定して区分管理を実施していく。（下記例）
 - 生物の多様性維持、湧水保全等の観点から、急激な変更、伐採は避ける必要があるが、利用も踏まえた公園植生の保全・活用について十分検討しながら管理する。

タイプA：現況が主に北東向き斜面又は急傾斜や谷地で利用に適さない樹林地

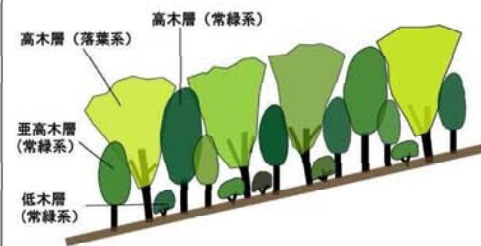


将来イメージ



常緑系の亜高木層の間伐、低木層の伐採など、見通しを確保するため、常緑系の密度を調整する方向で管理する。

- 目標とする植生→「里山型混交林」



常緑系の密度を下げる

タイプB：現況が主に南西向き斜面または緩傾斜で利用に適した樹林地



将来イメージ



高木層、亜高木層の間伐や低木の伐採などで樹木の密度を下げ、さらに定期的な下草刈りなどにより、クヌギ・コナラを中心とした明るい林床の雑木林として管理する。

- 目標とする植生→「里山型クヌギ・コナラ林」



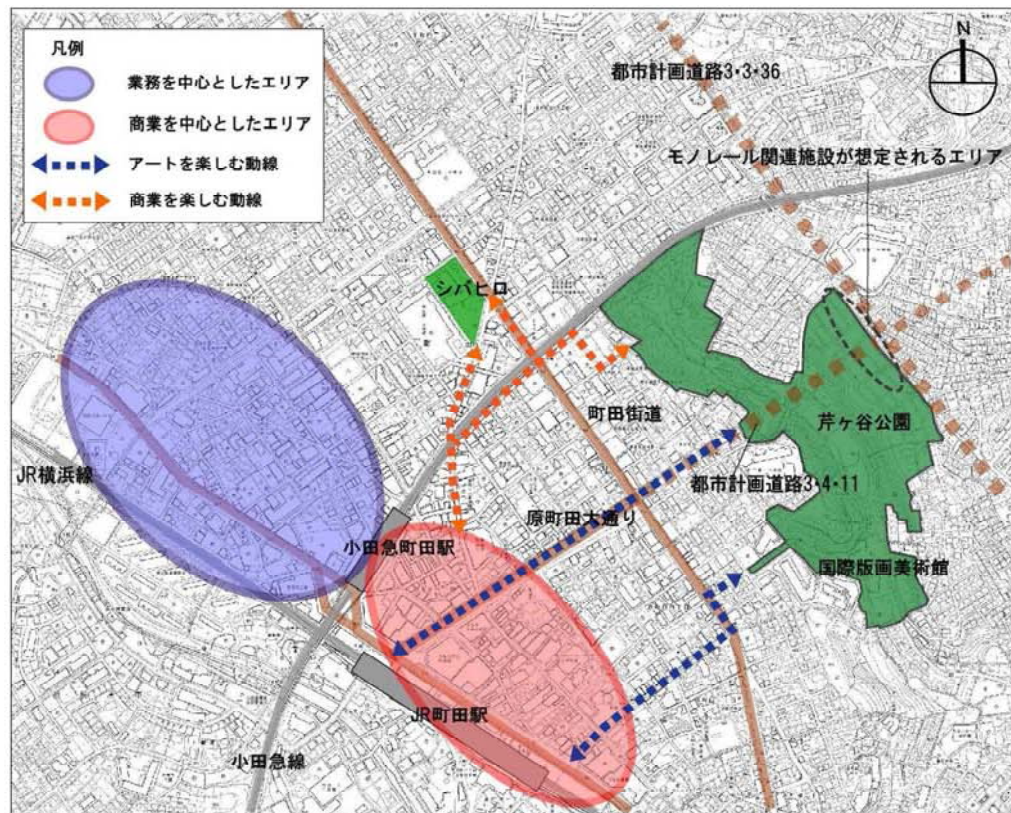
落葉樹を中心とした林としていく
明るくすることで野草の成長を促す

6 想定される事業例

整備方針	事業例	事業化のために検討・調整すべき事項
町田駅周辺の回遊性、賑わいを創出する場にします		
中心市街地との回遊性を高め、来街者が休憩したり食事をしたり、自由に楽しめる場にします。	○オープンカフェ整備事業	●管理・運営主体の設定と採算性の検討
	○バーベキューサイト整備事業	●資材の貸出、火気の使用、近隣への影響の検討 ●防災機能としての活用性の検討
	○町田荘跡地整備事業	●「食」の要素を入れた事業の検討
	○都市計画道路推進事業	●都市計画道路町3・4・11号線の事業促進
	○小田急線緑地整備事業	●小田急電鉄との調整 ●過大な事業費
	○明るい空間創出事業	●明るい空間創出のための植栽の間伐規模の検討、針葉樹から落葉樹への植替えの検討 ●小田急線からの見え方など、視認性に優れた整備の検討
	○園内イベント企画事業	●ライトアップ、イルミネーションなどを使用する新たな公園イベントの検討
	○園路等再整備事業	●ベビーカーやハイヒールでも歩きやすい動線の検討 ●高ヶ坂都営住宅跡地（芝生広場）まで散策を楽しめる幅員の検討
	○多目的広場芝生整備事業	●広場の利用実態と需要の把握
文化芸術を発信する場にします		
国際版画美術館や（仮称）国際工芸美術館を中心に、文化芸術の薫る場にします。	○（仮称）国際工芸美術館整備事業	●（仮称）国際工芸美術館基本設計、実施設計との調整
	○文化芸術体験事業	●ワークショップの企画や体験型施設整備の検討
	○アートストリート企画事業	●大学などと連携したアートイベントの検討
	○ストリートファニチャー整備事業	●導入施設の位置、規模の検討
中心市街地から公園までのアクセス路に文化芸術を感じられるようにします。		
人々が集い憩う場にします		
谷戸地形や湧水など、地域の自然を感じることができる資源を活用します。	○水路整備事業	●新たな水路整備の検討 ●水辺植物の配置の検討
	○虹と水の広場再整備事業	●モニタリングの診断 ●滑り止めなど安全確保策の検討
	○園内トイレ整備事業	●誰でも安心して利用できるトイレ整備
	○照明灯再整備事業	●照明灯の配置、照度を防犯上の観点から検討
	○園内危険箇所改善事業	●防犯を考慮した施設配置、植栽の間伐規模の検討
地域住民が安心して気軽に集い、憩える場にします。		
遊び学べる場にします		
地域の歴史を学び感じる場にします。	○ホテル生息環境整備事業	●ホテルを活用した魅力向上に向けた取組の検討
	○遺跡ガイダンス施設整備事業	●ガイダンス施設の規模、位置、アプローチ等の調整
	○冒険遊び場運営事業	●公園利用者や景観との調和
	○大型複合遊具整備事業	●まちなかの公園らしい魅力ある遊具の選定 ●子ども連れ来園者の動線を考慮した配置の検討
地域住民が集い憩う中で自然に見守られながら、子ども一人ひとりが健やかに育つ場にします。		
何度でも訪れたいくなる場にします		
四季折々、行く度に楽しめる花木の配置を行い、1年を通じて思い出を作れる場にします。	○植栽・花壇等再整備事業	●四季の緑を感じられる花木、草花、花壇の検討 ●桜祭りに応じた植栽の種類、配置及び規模の検討
	○ワークショップ等企画事業	●自然をテーマにした集客事業の検討
	○駐車場整備事業	●普通車の配置の検討 ●大型車の配置及び駐車場へのアクセス路の検討
	○サイン整備事業	●公共事業景観形成指針との連携
	○アクセス改善事業	●観光バスの誘致の検討 ●シバヒロから公園西側の入口の連携、入口の改良
様々なイベントやワークショップを開催し、多くの人が興味を持てる場にします。		
アクセスや案内表示などの周辺環境を整備し、誰もが行きやすい公園にします。		
中心市街地の防災力を支える場にします		
オープンスペースの確保と防災関連設備の充実を図り、中心市街地の防災力を向上させます。	○都営高ヶ坂団地跡地整備事業	●芝生広場の需要調査
	○防災対応公園施設整備事業	●防災ベンチ、防災倉庫、非常用トイレ、防災行政無線など防災対応施設の検討
防災機能を地域住民や中心市街地への来街者に広く周知する工夫を行い、防災意識の向上につながる場にします。		

7 中心市街地との関連図及び今後の進め方とスケジュールについて（案）

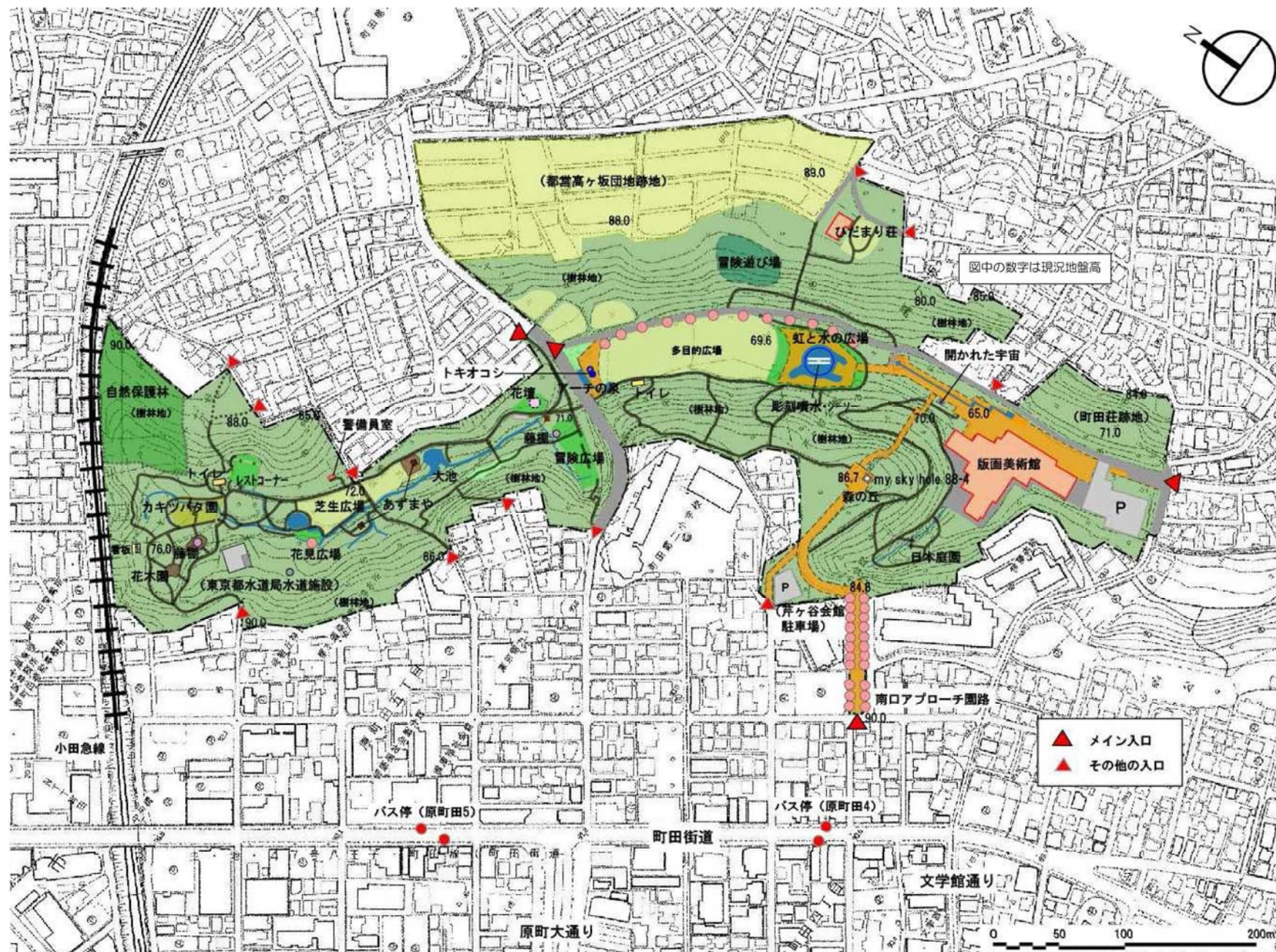
■町田市中心市街地との関連図



■今後の進め方とスケジュールについて（案）

事業・関係計画内容	年 度						
	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度 (東京五輪開会)	年度不明
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年以降
中心市街地整備計画	基本計画 ↑ ・市民意見 ・懇談会	拠点整備の検討 地権者調整				個別事業	
芹ヶ谷公園再整備基本計画	基本計画 ↑ ・市民意見 ・懇談会	基本設計 実施設計	整備工事			開 園	
(仮称)国際工芸美術館事業計画	基本設計 ↑ 自然環境調査	実施設計	整備工事			開 館	
将来関連計画(都・関連団体)							
・多摩都市モノレール			時 期 未 定				
・都市計画道路			時 期 未 定				

<参考資料1> 現況公園施設の概要 (1) 現況図



＜参考資料１＞現況公園施設の概要 （３）現況公園施設の概要

■主な公園施設の概要

番号	施設の名称等	施設の概要
①	版画美術館前のせせらぎ（水路）	版画美術館正面の舗装された園路と一体となったシンボリックな水路で、虹と水の広場と同様、夏には水遊びする子供たちで賑わう。
②	虹と水の広場	町田市民で国際的に活躍した彫刻家飯田善國「噴水彫刻」（モニュメント）がある。多くの家族連れが訪れ、噴水の近くで遊ぶ光景は、夏の風物詩のようにになっている。
③	多目的広場	谷地で斜面地を多く含む園内で、運動やスポーツ、風揚げなど自由に遊べる広場で、さくら祭り、時代祭り（流鏝馬）などイベントにも利用されている。
④	日本庭園（版画美術館裏園地）	版画美術館裏手の緩やかな斜面樹林地にあり、回遊園路と流れて構成された園地で、もみじなど緑豊かな空間であるが、目立たない場所にあり利用者は少ない。
⑤	森の丘	斜面地上から園内を展望し、休憩できる小広場。園路の分岐点にもなっており、園内案内をするのに適した場所にある。球体のオブジェがあり、印象的なアート空間でもある。
⑥	冒険遊び場	樹林地の中で自然の地形や植物などと親しみながら、遊べる場所。NPOやボランティアなど大人の指導や見守りの中で、ものづくりなど様々な遊びを体験できる常設エリア型施設。（2014年9月開設）
⑦	南口アプローチ園路	町田街道から公園へのアクセスできるサクラの並木を配したプロムナードで、春は花見、夏は緑陰として親しまれている。
⑧	芹ヶ谷ひだまり荘	休憩室、トイレのある施設
⑨	冒険広場	ブランコ、木製遊具（平均台）、ターザンロープなど遊具を配した広場、ベンチやパーゴラがあって、親子がともに利用できる。
⑩	アーチの泉	公園西北側からの湧水を集めて、アーチ状のトンネルから泉として湧出させている。夏はじゃぶじゃぶ池として子供の人気を集めている。
⑪	大池	湧水を利用した池を自然石で修景した日本庭園的な園地で、ベンチを配して良好な水辺景観を演出している。
⑫	芝生広場	きれいに管理された芝生広場にあすまやを配し、近くの大池の水辺と周囲の樹林地と一体となった静かにくつろげる空間。
⑬	花見広場	湧水の流れを利用した小川沿いに桜が植栽された小広場で春には花見客が訪れる。
⑭	カキツバタ園	カキツバタを植栽した湿地の園地で、八つ橋状の園路で周辺が散策できる。現在はカキツバタの植栽はされていない。
⑮	湧水と流れ	周囲の斜面からの流れを集めた自然の流れで、芹ヶ谷公園の大きな魅力の一つになっている。
⑯	花木園、藤棚	ツバキ、ウメなどの花木とフジは季節の彩りを感じさせる花木園と藤棚は散策コースの重要なポイントとなっている。
⑰	レストコーナー	静かな樹間でベンチを配した平坦な空間で、木々の香りや小鳥のさえずりなどを満喫できる。
⑱	自然保護林	小田急線沿いののり面と自然斜面で、コナラ、クヌギなどの落葉広葉樹、シラカシなど常緑樹で構成され、自然遷移の進んだ保護林としている。

■湧水の確認位置と概要

ポイント	位置と概要
A	自然保護林周辺からの湧水で、小田急線軌道斜面下からはっきりと湧水が確認できる。
B	レストコーナー階段下の斜面から、わずかに湧出している状況が確認できる。
C	花見広場脇の流れに合流する湧水が確認できる。
D	水道施設水源の余水が管を通して比較的まとまった水量が放流されている。
E	あすまや裏の斜面から湧出しており、周辺はカササゲが群落を形成している。
F	Eと同じあすまや裏の斜面から湧出しており、Eと合流して園路脇の流れへ流下している。
G	冒険広場周辺の斜面から水が湧出して流れになって流下している。
H	版画美術館裏の日本庭園の奥の流れで、ごくわずかな水量が滲み出ている。



<参考資料1> 現況公園施設の概要 (4) 国際版画美術館と公園内のオブジェ

国際版画美術館と公園内のオブジェ



「彫刻噴水・シーソー」(飯田善国 作)



「開かれた宇宙」(高橋清 作)



「トキオコシ」(平野杏子 作)



「my sky hole 88-4」(井上武吉 作)

【国際版画美術館】

町田市国際版画美術館は、「美術作品の鑑賞に適した環境が備わっていること」「公園に隣接し自然と調和した設計が可能であること」などの理由から、芹ヶ谷公園内東南部に1987年に開設した。

建築面積約2,800㎡、延床面積7,840㎡で、版画を中心とした美術作品、資料約27,000点の収蔵を誇るわが国では珍しい版画美術品を収集、展示を目的とした美術館である。

年間利用者は、約18万3千人(2012年)である。

	2012年度	2011	2010	2009	2008
国際版画美術館来館者数 総数	182,679	149,724	157,081	166,846	154,345
1. 企画展示室	74,101	59,323	57,015	58,652	52,036
2. 常設展示室	41,365	35,798	32,709	35,119	31,674
3. 工房	2,472	2,475	2,455	2,507	2,718
1～3小計	117,938	97,596	92,179	96,278	86,428
4. ハイビジョン・ギャラリー	10,703	3,220	9,173	9,830	8,893
5. 講堂等	5,960	5,364	7,070	6,749	8,204
6. アトリエ	4,042	4,503	3,946	4,120	4,200
7. 市民展示室	44,036	39,041	44,713	49,869	46,620

資料 文化スポーツ振興部国際版画美術館

国際版画美術館



＜参考資料２＞当初計画及びその計画趣旨



昭和 57 年に 4.1ha で開園した芹ヶ谷公園（小田急線沿い西側エリア）の当初計画の主旨は以下のとおりである

（以下、「芹ヶ谷公園基本計画説明書」より一部を抜粋）

【芹ヶ谷公園の現況と特色】

- ほぼ中心部に位置し、市街地に残された貴重な緑で囲まれた谷間である。
- 所々に湧水がある。
- 敷地の中間を近所の人々が通勤、通学、買い物の生活道路が通っている。
- 計画地周辺に児童公園が少ない。

【植生】

- スギ、サワラの植林が部分的に見られる他は、クヌギ、エゴ、イヌシデなどの関東地方一帯に広がる代償植生（二次林）が成立している。
- ミズキなど水好性植物が多く、全体に湿潤な土地であるといえる。
- 北側の緩斜面は常緑樹の高木が少なく、明るい林床を呈しているが、自然のままで放置するならばシラカシ等の常緑広葉樹林に遷移していくと思われる。

【計画の基本方針】

- 市街地に残った貴重なみどりを極力保全する。
- 人間と緑のふれあいの場、人々の出会いの場として親しみある空間を計画する。
- 既存林の他に、計画地の景観、生育条件に合った樹種を選定、植栽して都市の中に林を育てていく計画とする。

【地元住民打合会の実施】

- 地元住民打合会が計 3 回実施されたがメンバーは以下のとおり。
- 専門委員、青少年対策委員会、隣接町内会、市民団体、市議会建設常任委員会議員、町田市公園緑地課、受託設計業者



【地元の要望】

- 自然をできるだけ残したい。
- 避難場所となるようにしたい。
- 湧水を生かしたい。
- 四季を彩る花木、草花がほしい。

【専門委員の意見】

- 自然を生かした公園にしたい。
- 湧水をうまく利用し、浅い小川の流れる公園にしたい。
- 公園の中央を通っている生活道路を（利用者が）うまく利用してほしい。

【子供たちの意見】

- 自然を残してほしい。
- 大きな池をつかってほしい。
- 木で作った冒険遊具がほしい。